

D

## 公開実用 昭和61-24920

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-24920

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)2月14日

H 01 H 13/02

A-8224-5G

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 照光式押釦スイッチ

⑯ 実 願 昭59-109709

⑰ 出 願 昭59(1984)7月19日

⑱ 考 案 者 藤 田 浩 和 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内  
⑲ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪市阿倍野区長池町22番22号  
⑳ 代 理 人 弁理士 福士 愛彦 外2名

---

## 公開実用 昭和61-24920

### 明 細 書

#### 1. 考案の名称

照光式押釦スイッチ

#### 2. 実用新案登録請求の範囲

1. 押圧面に一部が表出するようにして押釦スイッチの打鍵部が一体に形成された透明体を押釦に取付け、弾性体により操作パネル面上に突出させると共に、上記透明体と対向する位置には発光手段を、また上記打鍵部と対向する位置には押釦スイッチを設けたことを特徴とする照光式押釦スイッチ。

#### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案はビデオテープレコーダ等各種の電気機器に於いて用いられる照光式押釦スイッチに関するものである。

(従来技術)

最近ビデオテープレコーダ等の各種電気機器は小型化される傾向にある。このため機器の操作パネル面上に配設される各種の操作スイッチも少な

いスペースで設置することができるようになったものが種々開発されており、従来一般に用いられている照光式押釦スイッチは第2図に示すようになっている。即ち押圧面1aに一部が表出するようにして透明体2を押釦1に取付けていると共に、この透明体2の後端と対向する位置には発光素子3が一体に設けられた押釦スイッチ4を配設しており、操作時復帰用スプリング5の弾性力に抗して操作パネル6面上に突出した押釦1を押圧すると、透明体2の後端が作動片4aを押圧し押釦スイッチ4がオンされると共に、これに伴い発光素子3が点灯され、透明体2の内部を通り押釦1の押圧面1aを照光させるようになっている。

( 考案が解決しようとする問題点 )

しかし上記従来の押釦スイッチでは、発光素子3と押釦スイッチ4が一体に設けられていたため、大型の発光素子3を用いることができず、押釦1の照光面積を大きくすると暗くなるという欠点があった。

( 目 的 )

---

## 公開実用 昭和61-24920

---

本考案は上記従来の欠点を除去することを目的とし、押釦に取付けられる透明体と一体に押釦スイッチの打鍵部を形成し、発光素子と押釦スイッチとを別個に設けることにより、押釦の照光面積を大きくしても十分な明るさを得ることのできる照光式押釦スイッチを提供するものである。

### (実施例)

以下、図面に示す実施例に従って本考案を説明する。第1図に於いて、7は機器の操作パネルで、この操作パネル7には後述する押釦8が挿通される開口9が形成されている。8は押釦で、上記開口9より操作パネル7面上に突出するようにして設けられている。10は透明体で、押圧面8aの一部が表出するようにして押釦8に取付けられていると共に、この透明体10には後方に突出して透光部11及び押釦スイッチ12の打鍵部13が一体に形成されている。14は上記透光部11の保持部15が形成されたガイド板、16は上記押釦8を付勢する復帰用スプリング、17は上記透光部11と対向するようにして印刷配線基板18



に取付けられた発光素子、12は上記打鍵部13と対向するようにして印刷配線基板18に取付けられた押釦スイッチである。

そして操作時押釦8を復帰用スプリング16の弾性力に抗して押圧すると、打鍵部11が押釦スイッチ12を押圧しオンさせる。そうすることにより発光素子17が点灯され、光は透明体10を通り押釦8の押圧面8aを照光するようになっている。

従って上記実施例に於ける照光式押釦スイッチでは、大型の発光素子17を用いることができるため、押釦8の照光面積を大きくしても十分な明るさを得ることができ、押圧面8a上に大型のマークや複雑な文字等を浮き出させることができるものである。

(効果)

以上述べた通り本考案に於ける照光式押釦スイッチでは、押圧面に一部が表出するようにして押釦スイッチの打鍵部が一体に形成された透明体を押釦に取付け、弾性体により操作パネル面上に突

---

## 公開実用 昭和61-24920

---

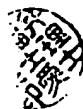
出させると共に、上記透明体と対向する位置には発光手段を、また上記打鍵部と対向する位置には押釦スイッチを設けたことにより、押釦の照光面積を大きくしても十分な明るさを得ることができ、押釦の押圧面上に大型のマークや複雑な文字等を浮き出させることができるものである。

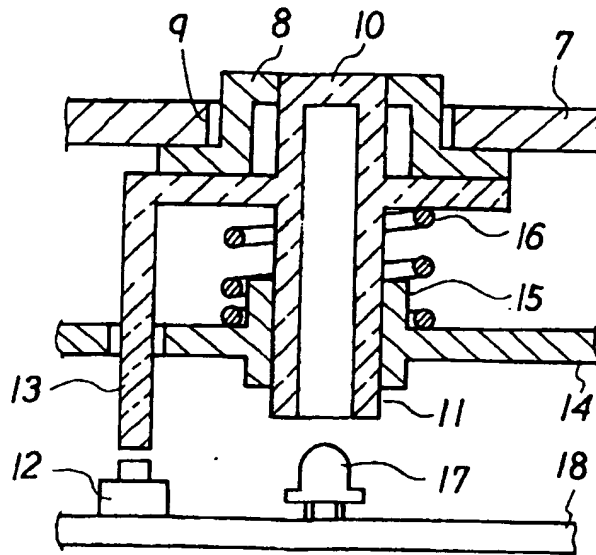
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の1実施例に於ける照光式押釦スイッチの側面断面図、第2図は従来一般に用いられている照光式押釦スイッチの側面断面図である。

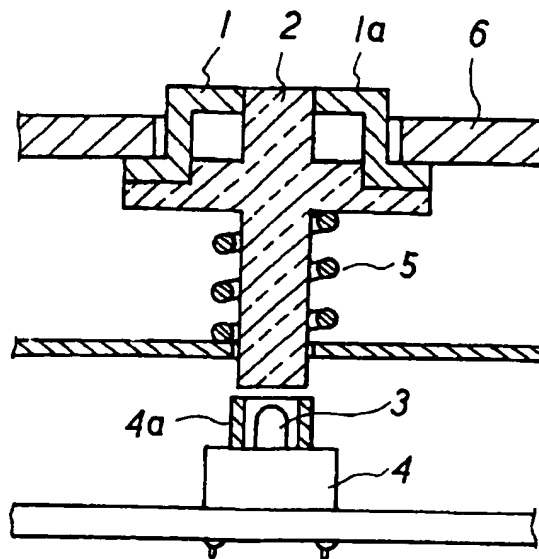
8 … 押釦    8a … 押圧面    10 … 透明体    12 … 押釦スイッチ  
13 … 打鍵部    16 … 復帰用スプリング    17 … 発光素子

代理人 弁理士 福 士 愛 彦 (他2名)





第 1 図



第 2 図